



先日、昨年11月24日から今年5月21日までの半年間の書籍の売り上げが発表されました。売り上げ数1位になったのは、第164回芥川龍之介賞を受賞した『推し、燃ゆ』（宇佐見りん 著/河出書房新社）。累計発行部数は50万部を超えたということです。それに困るだけではありませんが、3学年の図書委員さんが選んだ今年のお題は「推し本」。さて、これらの推し本は、あなたの気持ちを掴むことができるでしょうか。

有 → 蔵書あり



『か「く」し「ご」と「」』
住野よる 著
双葉社



私が推す本は住野よるさんが手掛けた『か「く」し「ご」と「」』という本です。この本は5人の高校生がそれぞれ持っている「相手の感情が分かる能力」によって人間関係に悩み、それを解決していく物語となっています。その悩みは現在高校生である私達に共通する点が多くあり、この本を読むことでこれからの高校生活が大きく変わると思います。また、この本は5人の視点で書かれているのですが、全て同じ系列ではなく、5人の視点を合わせることで1つの物語となっているおもしろい本です。興味が湧いた方はぜひ読んでみてください。

(ペンネーム Nimura)



『君の臓腑をたべたい』
住野よる 著
双葉社



「僕」は盲腸の手術後の抜糸で病院に行った時、クラスメイトの桜良が臓腑の病気であることを知ってしまいます。その後「僕」は彼女の「死ぬまでにしたいこと」に強引に付き合わされるようになります。2人で泊まることになったホテルでは、ゲームをしたり、色々なことを話したりして、心の距離が縮まります。しかしその後、彼女は入院することに。入院期間が伸び、心配になりますが、ついに退院の日がきます。桜良と会う約束をした「僕」はメールを送りますが、いつまで待っても返信は来ないのです。

この物語は映画にもなっています。感動的で切なく悲しい話ですが、面白いのでぜひ読んでみてください。

(大山翔太)



『小説ほしのこえ』
新海誠 原作, 大場惑 著
KADOKAWA



この本は「君の名は。」で有名な新海誠の商業デビュー作です。この作品には2人の仲の良いクラスメイト、ノボルとミカコが出てきます。ある日ミカコが国連宇宙軍選抜メンバーに抜擢され、2人は宇宙と地球という離れた関係に。唯一2人をつなぐメールも距離が離れるにつれ届くまでの時間も長くなっていきます。やがて2人の互いを思う気持ちも……。というストーリーとなっています。私はこの本を選びました。

(ペンネーム ななし)

月間多読賞(5月)

1年1組	R・Sさん	(18冊)
1年1組	T・Nさん	(4冊)
2年1組	S・Kさん	(4冊)
2年1組	K・Sさん	(4冊)
3年1組	A・Yさん	(6冊)

月間多読賞【げっかんたどくしょう】1ヶ月間に本校図書館から本を4冊以上借りた人に贈られる賞。図書館・図書委員会による共催。今年度新設された。

特典①図書館だよりへの名前(イニシャル)の掲載。

特典②記念品(葉型賞状)の進呈。

皆様のチャレンジお待ちしております